

■実際にRPA導入に携わった担当者の率直な意見

【AI-OCRが活用できる内容】

- ・一文字一文字枠で区切られていること
- ・枠が大きいこと
- ・読み取りたい項目が単語であること（自由記載欄等を読み取るのは困難）
- ・数字の読取
- ・チェックボックス形式

【RPAに適している業務】

- ・（誰がやってもすぐ出来てしまうほど）単純でパターン化されている作業（コピーやクリックだけの作業等）
- ・人間の判断や思考を要しない作業
- ・データ化されているものの入力
- ・場合分けが少ない作業
- ・同じ作業を大量に繰り返す作業

【意見】

RPAを作成してみて感じたことは、意外と制限（できないこと）が多いので、RPAができる業務というのは限られると思います。

ただ、単純な入力業務であればRPAできる可能性はあると思います。

収納課の事例は、税金を還付する振込先口座の入力作業なので、各種給付金や手当の支給に関する入力業務等は活用できるかもしれません。

もともとデータ化されているものの入力作業は得意だと思います。

①電子申請で受け付けたものをシステムに入力する作業

②例えばAのシステムに入力してあるものをBのシステムへ再度入力する作業

③Excelに入力されたものと同様のものをシステムに入力する作業等

以上のものは導入しやすいと思います。

また、AI-OCRで言えば、チェックボックスの読取は得意なので、各種アンケートの集約作業とかでしょうか。

最初からRPAありきで、現状の作業をそのままRPA化すると失敗のリスクは大きくなると思われるため、RPA作成前にBPRを実施し、本当にRPAが最適なのか？を考えることと、RPAのシナリオを出来るだけシンプルに作成するために、RPA用に作業手順等を見直す作業は必須だと思います。

【収納課で考えている今後のRPA導入業務】

・ピピットリンク（オンライン預金調査）で行った金融機関への口座照会の回答が電子で返ってくるので、そのe-suiteへの入力をRPA化しようと検討しています。（現在は紙に印刷して嘱託さんが手入力）